

対話や外交でこそめごとを解決できる

非核平和のアジアへ日本は行動を

南北、米朝首脳会談が実現へ アジアの平和へ大きなチャンス



この間、北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐって朝鮮半島で軍事的な緊張が続いていました。しかしいま、平和の実現へ、対話を進める流れが生まれています。

3月6日、韓国の特使と北朝鮮のキム・ジョンウン氏が会談し、4月末に南北首脳会談が、5月に米朝首脳会談が開かれる予定です。

朝鮮半島の軍事的緊張は、核戦争がおこる可能性もある、非常に危険なものでした。今回の対話の流れをあとおしし、核兵器のないアジアへ一歩を踏み出さなければなりません。

このチャンスを生かすには、東アジアの市民一人ひとりの行動が大事です。対話に動いた韓国のムン・ジエイン政権をつくったのは、ロウソク集会で前政権を弾劾に追い込んだ市民の運動でした。被爆国日本からも、平和の声をあげましょう。

日本政府は被爆国にふさわしい 役割の発揮を

残念ながら、韓国、北朝鮮、アメリカからの対話の流れに、日本は取り残されています。河野外相は、「対話のための対話には意味がない」「北朝鮮の微笑外交にだまされるな」という、これまで水を差してきた姿勢をあらためていません。

朝鮮半島の非核化、核兵器のないアジアを実現するために、被爆国にふさわしいイニシアチブが必要です。東アジアで核兵器禁止条約に反対しているのは、韓国と日本だけです。北朝鮮や中国は、条約の必要性はみとめています。

いま、森友文書改ざん問題をはじめ、日本の政治・行政のあり方が問われています。主権者であるわたしたち一人ひとりの声と行動で、核兵器禁止へ行動する日本をつくりましょう。ぜひ、「ヒバクシヤ国際署名」にご協力ください。



(2018.4.6)